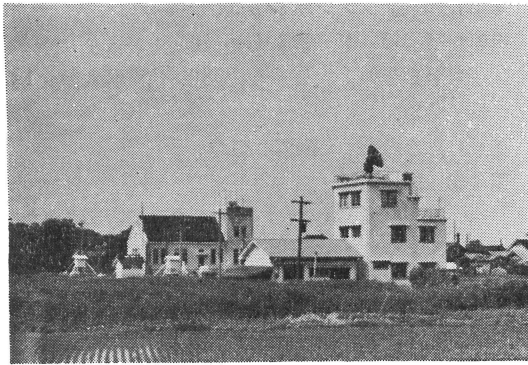


地方だより



輪島測候所全景（坂本技官撮影）

本州の日本海側の単調さを破って北に突出すること約100 軒に及ぶこの能登半島は、古代には出雲地方との交流もあり、また中世には渤海の使がたびたび訪ずれ、それらの文化の影きょうを多分に受けて一時は大いに発展したと伝えられます。時は移り、半島の隔絶性が一面において利用されて武士の流刑地となったり、藩政時代までは落人の土着等があったほどの土地柄だけに、今なお人情は素朴で美しい詩のような伝説が数々残されています。

専門家にとって能登は歴史の宝庫だとも云われます。

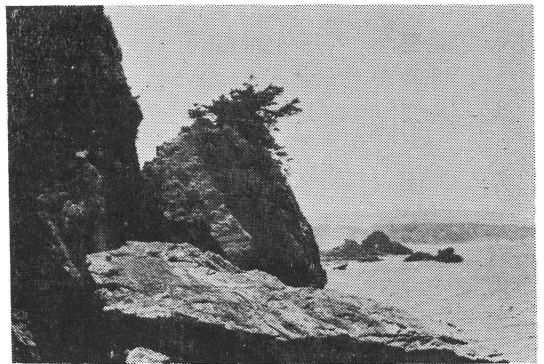


穴水附近一能登内浦（白井技官撮影）

輪島測候所

上杉謙信をしてかの有名な「霜滿軍營秋氣清……」と吟わしめた「能州の景」はそのもろもろの美しさが程よく織りなしており、それは現在かずかずの映画ロケーションの好適地として利用されていることでも覗い知ることが出来ます。土地の人々は半島の西側を外浦、東側を内浦と云って区別しており、それぞれの海岸の特有美を男女両性に分けて説明しているのも面白く、輪島市付近の曾々木海岸などは外浦の男性的景勝地で、石英粗面岩で形成される海岸線が対島海流の浸蝕により奇岩怪石となって続きます。

一方内浦側はリアス式の沈降海岸で入江や島が多く、



曾々木海岸能登外浦（白井技官撮影）

その静かな清い美しさは日に佳く月に佳く、謙信の感興もさこそとしのばれます。このように幾多の名勝と奇景・伝説を秘めた能登半島は、水象上から見ても非常に変化に富んでおり、「月にむらくも花に嵐」を数字で加減しながら毎日対外的信用を気にしています。

近年突発的な集中豪雨がかしこに起っておりますが、其日本の前哨基地として当所に宿望の気象用レーダーの設置が実現しさえすれば、日本海側中央部の観測センターとして更に充実するわけで、その効用はとくに広いものとして各方面から期待されております。

（岩田育左右記）